

ある韓国人留学生の 縦断的な発話の変化

—「つなぎの要素」に着目して—

横浜国立大学留学生センター
奥野由紀子

目的

- 学部で過ごす留学生の日本語がどのような結束性を持って変化してゆくのかを縦断的に探る。

方法

- 半年、一年ごとに縦断的OPIデータを実施
- 文字化
- 質的分析
- フォローアップインタビュー

先行研究

- 関西OPI縦断研究(2002): 中級→上級、ケド節のバリエーション増。
 - ・相手の理解を助けるような補足情報を加える。
 - ・誤解や疑問を予め回避するため、話し手の心的態度を示したり、より詳しい情報を付加して伝える
- 発話の内容が豊かになると同時に、理解しやすくなる。段落形成には、十分な発話量と結束性が不可欠であり、ケド節の増加は段落の形成に役立っていると考えられる。
- 山内(2009):「茶釜」や「Nグラム統計」を使った形態素抽出を行い、各レベルにおける特徴的な形態素を明らかにしている。
例: 超級に頻出する形態素: こう、けれども、っていう、そういう、まあ、ま
- ⇒「いかにも超級っぽい」要素がどのように増えるのかという、縦断的研究はない。

学習者

- 韓国で半年、横浜国立大学の留学生センターにて半年の予備教育を受けた後、工学部に入学。卒業まで最低4年半は日本で過ごす。

- 継続的にOPIを実施

来日時: 中の中 ⇒ 半年後: 中の上 ⇒ 学部入学!
一年半後: 上の中 ⇒ 一年半後: 上の中

1回目: 来日時(中の中)

- 話題: 趣味・サッカー・オフサイドルールの説明
- 短文羅列、挫折がみられる。
- けど・でも・ば・だから出現。

→必ずしも適切とは言えない

サッカーのオフサイドルール(1回目)



ああ、これはゴール、ゴールがあります、ゴールマウスがありますけど、あります、えっと、ディフェンスのラインがあります、でも、クー、相手の、相手の、オフエンソがディペンスライン、ラインより後、後にあればオフエンソは、ゴールを成功、成功、成功をするで、して、あ、いいです、いいです、えっと思います、あ、ディペンソのラインより後に、クー、オフエンソプレイヤーがあって、このオフエン、オフエンソプレイヤーはボールをぼ、ル、を、ゲットする、ボールがゴールマウスにいて、いる、いることが、クー、やすいです、だから、オフ、オフサイドルールはこれをだめ、出てこのオフエンソプレイヤーがディフェンスラインより、まえ、まえで、いる、いることです、あ、わかりません

私、韓国語ではちょっと専門的に説明することはできますけど私、日本語はまだでき、上手じゃないんですから

2回目：半年後(中の上)

- 話題：漫画のストーリー・バスケットの三点シュートの説明
- 段落ほぼ形成。段落のまとめ文出現。前置き節・挿入節出現。
- けど、まあ、
まあ、そんな若者です。
そんな話です

漫画のストーリー(2回目)

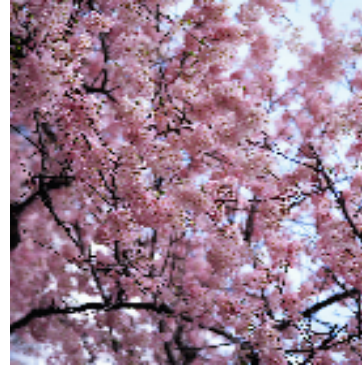
- まあ、主役は桜木花道という高校生なんですけど、ちょっとばかで、馬鹿なんですけど、こい、あいつはおれは天才って**して、若者です、クー、桜木花道は中学校ときから、高校まで、まあ、五十回女から振られて、周りの友達が、なんだ、馬鹿、馬鹿を言ったなあ、まあ、そんな若者です、でも、高校に入学して、好きになる女が「ああ、桜木さんバスケットをしてみたらどう？」って、あ、それから、バスケットをして、素人だった桜木花道がバスケットをならんで、スポーツのスポーツのまいりよく、少しのいいところをまあ、わかってる、そんな、そんな話です

バスケットの点数(2回目)

- S: まあ、バスケットのコートには、これ、こっちが箱みたいなのが、リングというんですけど、リングの周りに、半円の線があります、この線の外で、シュートを、が、シュートして、決まったら、3点、とこの線のうちでシュートを、して、決まったら、2点
- T: ああ、そういう違いがあるんだ。1点の時ってありますか。
- S: 1点、1点は、攻撃する選手が、シュートをするとき、ディフェンスの側がをファウルをする場合に、ファウルするっていう、フリースローというのが、あります、それが、それは、ああ、リングから、三メートルぐらいかな、この三メートルぐらいの線の前で、ま、誰も、誰からも邪魔をもら、うけなくて、シュートをする、それで、フリースロー、フリースローは、うん、やさしいですから、これが、一本決まったら、1点、

学部入学！

- 友達とうまく話せない
- レポートが大変
- 女の子と話したい



3回目：一年半後(上の中)

- ・話題：留学前の不安・日韓プログラム
- ・発話量増大・複段落形成
- 「つなぎの要素」増。語彙選択や思い起こす際の内言出現。問いかけ出現。
- ・っていうか、やっぱり、やっぱり、ちょっと、んじゃないかなって思ってたんですけど、～じゃないですか、でも、まあなんか、で、～じゃないかなって思います、はい、

留学プログラム(3回目)

- 詳しい、僕は実は、お金以外は別に詳しいことは、よく分らないんですよ、でも、まあ、一応、いつだったっけ、1999年か、いつかよく分らないんですけど、あのう、キム デジュンという、この、元大統領と元総理大臣だった小泉だいが、話を、話し合っ、やっぱり、日本と言え、結構世界的にも経済力も、経済力持ってるし、技術的な面も持ってるから、あのう、キム元大統領が、なんか日本に私たちの国の学生たちを留学させて、いろんな技術とか文化を、なんか勉強して、勉強してもらいたいなと、そんなきっかけだったと分かってまして、僕が今七期なんですから、多分、あ、そうさ、1999年に、第一回の学生たちが選ばれて、みんな、あのう、日本に来て勉強してます、で、あのう、せんぱつ基準っていうか、テストっていうか、それは、一応、韓国の全国で、申し込みをもらうんですよ、で、それから、なんか高校にはせいせきとか結構あるんじゃないですか、で、成績を基準として500人を一応、あ、一応全部選んで、で、この500人から、500人が全部テストを受けて、で、そっちから100人ぐらい、100人か、100人ぐらいが選ばれて、**れた人たちが「あ、行きます」とゆったらここに来る、んです、

4回目：二年半後(上の中)

- 話題：本の内容
- 複段落形成
- 「つなぎの言葉」やや減る→簡潔になってくる
自分から**主題を提示**し、話をふくらませる

- ~けど、
- なんだろう、どこの人だっけなあ、なんと言え、いいんだろう、
- ま、一応、~というか
- ~って、~るんじゃないですか
- っていうのか

本の内容(4回目)

- :S:んん、**なんだろう**、ま、最近読んだ本の中で、一番印象的だったのは、**〈うん〉日本語でなんだろう**、愛するということという本があります、
- :T:うん、それは何ですか、**〈あ、それあの〉心理学の本**なんですか、
- :S:はい。僕そんなに心理学というくわしくないんです**けど**、**〈ええ〉その20世紀の一番有名**という**か**、**〈はい〉偉大な心理学者**の中で、**どこの人だっけ**な**あ**、ドイツの人で、**〈え〉あとで**、アメリカに住んでた**〈はい〉エリーフロム**という方がいます、**〈はい〉心理学者**なんです**けど**、**〈はい〉その人が書いた本**で一番**なんか売れた**という**か**、**〈ええ〉一番人気**があった、**人気**があった**と言え**ば、**ちょっとおかしい**です**けど**、**〈ええ〉ま**、**たくさん**の人が読んで、**〈え〉あ**、この本が**いい**な**あ**といったのが、**〈はい〉その『愛するということ』**という本で
- :T:あ、そうですか、じゃ、**ちょっと具体的に内容を**教えてもらいますか。

- あ、はい。**で**、**何で日本**で**なんか**それ、**その、その本**の名前を**〈うん〉『愛するということ』**に翻訳したのかよくわからないんです**けど**、**〈うんうん〉英語**の名では、:The art of loving って。適当に**訳すれば**、**愛の技術**、**という、そんな感じ**です**ね****〈うん〉**で、その本を、**なんだ**最初に表紙だけ見れば、**なんか、これ**、単なる恋愛の話かなと、思えやすいです**けど****〈うんうん〉**実際に読み始めると、**なんと言え**ば**いい**んだ**らう**、**ま、一応、一応**じゃなくて、**まず、本当に**ちょっと難しく**て**、難しいです**けど**、人、人が人を愛する**ということ**が、**どう**いうこと**なんだ**から、**ま、人**って**誰でも**そんな疑問を持って**るん**じゃない**んです****か**、それから話が**始**まって、**なんか、ま、いろ**んな**愛**という**か**、**〈うんうん〉ま**、お母さんが息子、息子とか、娘を愛することとか、**ま、人**として愛することとか、**について**、**本当に**鋭く分析して、**で**、最後の、最後の**ところ**では、**〈うん〉ま**、**こ**ういう愛する方とか**を取る**のも**いい**ん**じ**ゃない**かな**って**感**じて**終**ります**けど**、

- その本の中で一番印象的だった文章が、〈うん〉ま、結構はじめに、始めのところに文章なんですけど、、そうそう、現代人って、本当に、なんか、愛とか、本当に求めているんじゃないですか〈うん〉なんか映画とか、ま、歌とか、小説とかで、〈うん〉で、僕たち、我々そんなに愛について求めているのに、〈うん〉じゃ、愛って一体なんだろうとか、、そち、そこから始めるんですけど、その愛って本当に大事だし、そうだったら、もっと愛について分析したり、考えたりして、もっと、なんか、うまく愛することができるように、〈うん〉自分が期待すべきではないのかって、〈なるほど〉著者がそう言ってますね、普通に人達が、なんか、愛って、単なる感情だと思って、きじゅつ、というかタイミングとかあった、合うなら、〈うん〉ま、愛するんですけど、ま、そうじゃなければ、できないという、できないと考える人が結構多いと僕は思いますけど、僕もそうだったし、でも、その著者が愛っていうのがそんなに複雑だし、そして、我々そんなに大事に思うなら、それ感情的に考えるだけじゃなくて、もっとその技術とかを、期待すべきではないのか、〈うん〉そこから、その著者の、ちよとうか、その本が始まって、そのエリーフロムという方が考える愛ということから、〈うん〉その愛をどうすれば、うまく、なんだろう、行けるのか、〈うん〉それについて説明してますけど

フォローアップインタビュー

- 物質工学科・周りは皆日本人学生。一年前期の実験しながらレポート書くときが一番勉強になった。
- 友達達の話し方をよく聞いて真似しようと思った
- 1年生のときには若者っぽく話したいと思った
- 今(3年生)は、もう若者ことばはもういい。
先生の前で丁寧に話せるようになりたい。

母語話者(横国大学部生:留学生サポーター)🗣️

- ドラマはですね、あの一、今再放送なんですけど、「振り返ればヤツがいる」ってやつ、をしてて、あの一、それは医者をやつなんですけども、(どんな話が教えてもらえますか)それは、ちょ、ちょっとだけ「白い巨頭」に似てて、あの一、一人はすごい、すごい、なんというか、患者さんのことを考えて、人望も厚くて、で、もちろん仕事もできるんですけど、もう一人はもう、外科医で、すごいメスが切れるんですよ、けど、患者さんのことを一、考えてないことはないんですけど、決して丁寧に扱うということはなく、まあ、一生懸命やってるんですけど、二人がぶつかり合いながら、こう、出世を争うではないな、まあ、その、医者としての、ん一、あるべき姿ですか、そういうのをずっと、ぶつかり合いながら色んなことが起こっていく話です

複段落を形成するには

- 教示したものの以外の言語形式を学習者がいかにして身につけていくのかを分析する必要がある
- ともすると冗長的と言われる要素が必要なのではないかと
→ おそらく聞き手の理解にも効果的

引用文献

- 関西OPI研究会縦断班(2002)「発話データにおける『テキストの型』の内容分析」『日本語OPI10周年記念合同フォーラム論文集』pp.101-111.
- 山内博之(2009)『プロフィシエンシーから見た日本語教育文法』ひつじ書房.

ご清聴ありがとうございました

